

第1回 学校運営協議会記録

1. 学校長挨拶

校長として4月から着任。蔓延防止重点措置中の現在。200を超える学校が休業になっている。本校も、PCR検査を受ける生徒が何人かいて、いつ休校になってもおかしくない状態。

新1年生は122名が入学。3年連続定員を満たしていない。再編整備の対象となる可能性あり。学教審でも協議中。中学生も近辺では少なくなっている。南河内の公立高校の多くが定員割れ、もしくはギリギリの状態。非常に厳しい。来年度の選抜は実施する。OSも例年通り。中学校からも「地域にとって必要」「(環境の)きびしい生徒に対して、よく寄り添ってくれる」「なくなつては困る」の声を頂く。それを教育庁に届け、学校を残せるように頑張る。さまざまな課題のある生徒にしっかり寄り添い成長させたい。本日は忌憚のないご意見をお願いします。

2. 委員委嘱

A:元大学職員、元府立高校校長、学識経験者。

B:中小企業家同友会(南東部ブロック)より。今年度新たに委嘱。

C:障がい者福祉サービスの施設長。

D:松原市内小学校校長。

E:松原市内中学校校長。

F:PTA会長。今年度新たに委嘱。

3. 委員自己紹介

4. 会長選出 A氏

5. 令和3年度 学校経営計画

前校長の記述で、休校に対応した課題づくりについて予算の裏付けのない部分は不可能(オンライン学習部屋の整備)なので修正した。

府では、8月には1人1台端末配備予定。充電器はまだ。生徒が持って帰るのは先になりそう。ネット(wifi)環境も厳しい生徒多い。スマホで授業見るのは大変。少しづつ進めたい。

「(1)規律ある高校生活の実現」について。懲戒件数25件が目標。現在12件15人。5件が喫煙。5件はSNS関係。なぜやったのか、を訊いても理由が出てこない。SNS利用の啓発は進めているが、よりしっかりやっていきたい。

部活動、原則中止。文化部は全くできていない。体験部活もできなかった。前期生徒会役員は決まった。運動部を含めて、特に1年生が部活参加できるよう配慮したい。

「3 勉強が分かり学んだことを活用できる力を育成」について。観点別評価について、先進的他行の取り組みにも学びたい。同友会とも連携して、キャリア教育を総合探究の時間で計画的に実施し、就職講座や進学講座も行っている。

「4 人とつながり自らを律する力を育成」について。松原高校との他校通級の研究指定(2年)になっていることも活かして取り組みたい。「(2)『違いを認め合い他者を理解できる豊かな心』を育む」について。グローバルな視点をもって人権感覚を養いたい。

教員の育成について。初任研や10年研など、様々な機会をとらえて持続可能な教員力を伸ばしていく。

時間外労働を17680時間以下に。今年度から17時以降の校外での活動時間を入力するシステムになった。制度が変わって数字がどう出るが心配。時間を惜しまず、本当によく働いてくれている。できる限り「早く帰って」と声をかけなくていいようにしたい。

計画の「目指す学校像」と「中期目標」は承認事項。ご意見あれば。

協議員:教頭の仕事が増えそう。入力はそれぞれの教員が入力するのか?

学校:それぞれが入力する。

協議員：超過勤務、平均にしたらどれぐらいになるか？とてつもなく多い職員はいるか？

学校：月30～40時間ぐらい。100時間以上はいない。80時間は数名で産業医の面談も受けている。

6. 今年度の目標(分掌等)

① 1年、2年、3年の各主任が現状と今年度の目標について説明。

② 教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の各主任が現状と今年度の目標について説明。

*①と②に区切って質疑応答。

7. 協議及びまとめ

【1年、2年、3年の内容について】

協議員：2年生36名の転退学の内訳は？

教員：20名ぐらいは3月に成績を理由に転退学。その中には不登校気味の生徒も居た。残りは最初から不登校気味。

協議員：九九、漢字の読み書きができない生徒への対応は？

教員：指導は難しい。生徒が「嫌がる」場合も有る。

教員：小学校ではどのような指導をしているか？

協議員：学校に来た子は覚えていけるが、学校に来づらい子が学習に向き合うのが難しい。学習保障は放課後も難しい。

家庭との連携をとり、九九などは保護者の協力で、例えば風呂の中で教えてくれた例もあった。

教員：中学校は？

協議員：個別に指導している。漢字読めない生徒にはフリガナをうって授業に参加させている。できるだけ力をつけさせたいが、なかなか。特別支援が必要な生徒が多くなっている印象。通級が必要な生徒が多くなってきている印象だが、手立てをなかなかできない。

平野高校への進路選択について。経験的などころを述べると、私学入試、公立の特別選抜を見送った生徒が選んでいる。「定員割れだから入ろう」という生徒も居る。本校は近い。不登校ぎみの生徒にも、「ここなら行ける」という者もいる。学校があってありがたいが、進級の厳しさを理解できないまま進学する家庭もある。本当は進路変更しないままが良いが、なかなか上手くいかない。

教員：3年生「進路実現」に関して、Bさん、アドバイスがあれば。

評議員：私との接点は同友会。地域の子は、一緒に働く仲間。中小企業の方は、地域の人。99%は中小企業。大半は中小を勤めるということ。3割の人が1年以内で退社している。生徒の自信を興すことをいかに見ていけるか、先生がうまく拾えているチャンス・ヒントを授業、部活、特活へいかに活かせるかが大事。

高校1年の3か月で退社した人の例。母との対話で、「しんどい子」だった。授業で見つけにくい。運転免許が取れなかった。「日本語難しい」ではない。

学生は時がたてば就職する。後を支える企業として、先生には生徒の様子を注意深く見てもらえたら。

【教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の内容について】

評議員：教員定数は加配を含めてどれぐらい？

教員：40ぐらい。

評議員：6分掌に、7人入れるのは大変ですね。学年も同じ事か。

教員：中学校は？

評議員：35。加配入れて分掌は3。統合している。でないともわらない。学年は3学年。

評議員：大変だと思うが、触れられてなかったの。

評議員：松原の障害者施設を運営している。卒業生が就職した。グループホームの担当で、よく頑張ってくれている。その

人が学校にいた時の学力や配慮は知らないが、勉強面でのしんどさは感じる。まとめの書き物で、スマホで漢字。字は上手でない。丁寧に書いてほしい。書き、計算苦手。スマホに頼ることもできるのだが…。他の人もだが、生徒はいい人たち。頑張ってくれている。利用者さんに対しても、時に厳しく、優しい。楽しくやっている。3年間の土壌があったおかげ。定員割れもあったが、次の世代へ繋げてほしい。

評議員：学力、課題は大きい。コロナによって大きな変化も。対面でなく、ビデオの講義をやってみて。録画が簡単になった。ZOOMの内容を少しカットしたりして、you tube に上げて限定公開した。授業を受けたことにしている。「見た」と言ったら出席。メリットは何回も見えること。高校で、普段の授業をそのまま撮っておいて you tube を利用するのは難しいか。登校できない生徒には使えるかも。不登校の生徒が遠隔に参加することで、登校できるようになった例もある。

校長：授業見学について、ALと観点別評価、小学校の授業が参考になるのでは。特性のある生徒への対応も、小中学校でも増えていると感じる。保護者との連携による学力保障が大事。どんなアプローチがあるのか、本校にマッチするのは置いて、「視点」を持つのがスキルアップにつながると感じた。今日頂いた意見などを今後活かしていきたい。

8. まとめ・閉会の辞

次回は10月13日(水)予定です。